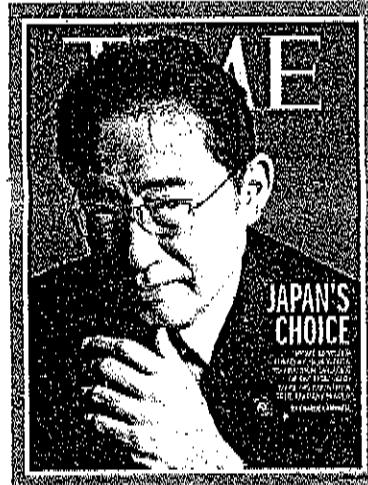


「岸田首相は平和主義を捨てる」



岸田首相を表紙に掲載した米誌タイムの次号
=同誌提供・共同

米誌タイムの表紙に

【ニューヨーク=杉藤貴浩】米誌タイム（電子版）は、岸田文雄首相を表紙にした5月22、29日号の一部内容を発表した。「日本の選択」と題し、「首相は数十年の平和主義を捨て、自國を真の軍事大国にすることを望む」と防衛費増大などの政策に注目している。

特集記事は、岸田政権の防衛支出増大や米国との同盟強化などの政策に触れ、「世界第3の経済大国を、それに見合う軍事

的影響力を持った大国に戻すことに着手した」と指摘。夕カ派的だった安倍晋三元首相が安保政策で国論を二分したのと比較し、「岸田氏の持つハト派の顔が大きな抵抗なしに改革を可能にした」と評した。

一方、日本の軍事力強化が周辺の安全保障環境を不安定化させ、中国との摩擦を強める恐れにも言及。「岸田氏の長年の公約である核なき世界への努力と相いれないと考える人々もいる」と指摘した。和歌山市で先月起きた首相襲撃事件については「私は政治の世界で生きている。どんなことも起こり得る」との言葉を紹介した。